

MWS社内郵便物仕分（簡易版）による 応用的アセスメント法の検討

～健常者データの詳細な項目分析を通じて～

- 知名 青子（障害者職業総合センター 上席研究員）
- 渋谷 友紀（障害者職業総合センター）
- 清水 求（元障害者職業総合センター）

発表要旨

背景

- ワークサンプル幕張版新規課題（以下、**MWS**新規課題）は、作業遂行力の高い者を対象とし、認知・行動特性やエラー傾向、疲労の現れ方・対処行動を把握する目的で実施されるため、特有の複雑性を持つ。
- このため、支援者にとって利用上の困難さが指摘されていた。
- 研究部門では活用の障壁を取払う目的で、教材や活用モデルを提供しており、新規課題の利用促進を図っている。

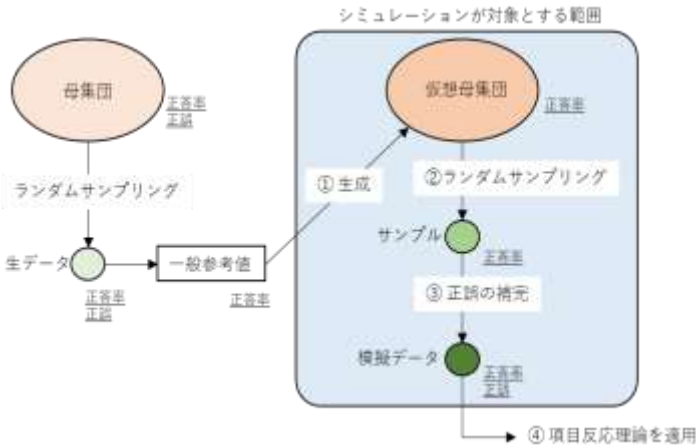
目的

新規課題のうち活用率の高い「社内郵便物仕分」を取り上げ、支援者の結果解釈の可能性を拡大するため、健常者データの再分析（項目分析；IRT等）を行い、本課題の複雑性を整理し、結果解釈にあたっての視点について考察する。

分析プロセス

プロセス 1：模擬データを用いた解析

- ・ 簡易版について公開済みの一般参考値を用いたシミュレーションを実施
- ・ 模擬データを用いたIRTの実施
- ・ 簡易版20試行は同レベルでも難易度にばらつきがあることや識別力の低い項目があることが推定された。



プロセス 2：実測データの事前評価

- ・ 実測データがIRT実施条件に該当しないことが判明
- ・ 20試行は1次元でなく多次元構造であること、試行間に共通性があることが判明

プロセス 3：実測データを用いた探索的因子分析

- ・ 因子で説明される課題遂行の力について結果解釈の可能性を拡大した
- ・ 当初設定されたlevelの難易度の要素について若干の解釈を追加

